

即湯水栓（即湯器）

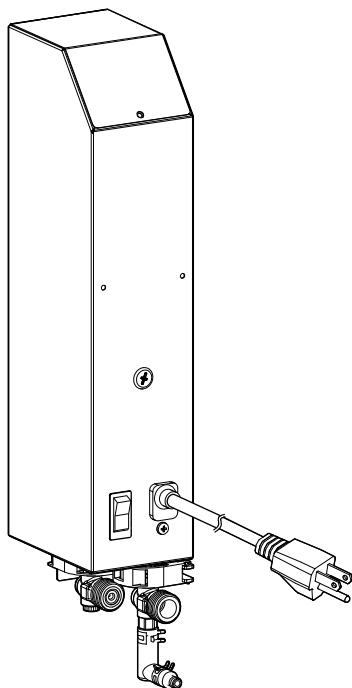
品番

EG-1S1, EG-1S2

取扱説明書

このたびは当社商品をお買い求めいただき誠にありがとうございました。
ご使用前にこの説明書をよくお読みのうえ正しくお使いください。
お読みになった後もすぐ取り出せる場所に大切に保管してください。

説明書に書かれている注意事項は、必ず守ってください。
不適切な使用により事故が生じた場合、当社は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
※保証書は紛失しないよう大切に保管してください。紛失した場合修理が有料となる場合があります。
※転居される場合、次に入居される方に、この説明書と保証書をお渡しください。



工事店様へのお願い

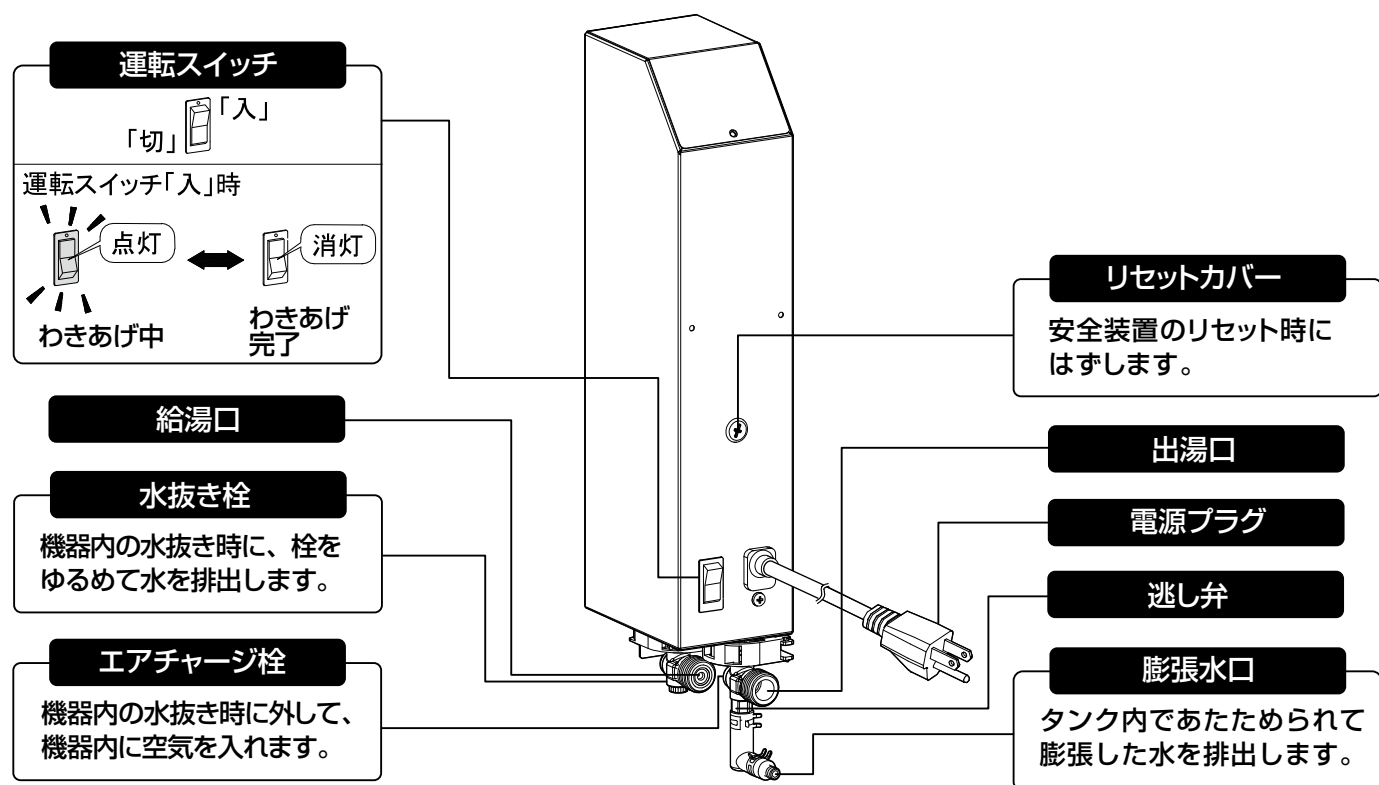
貴店名ならびに引渡し日を保証書にご記入の上、お客さまに必ずお渡しください。
また、定期的に点検が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。

もくじ

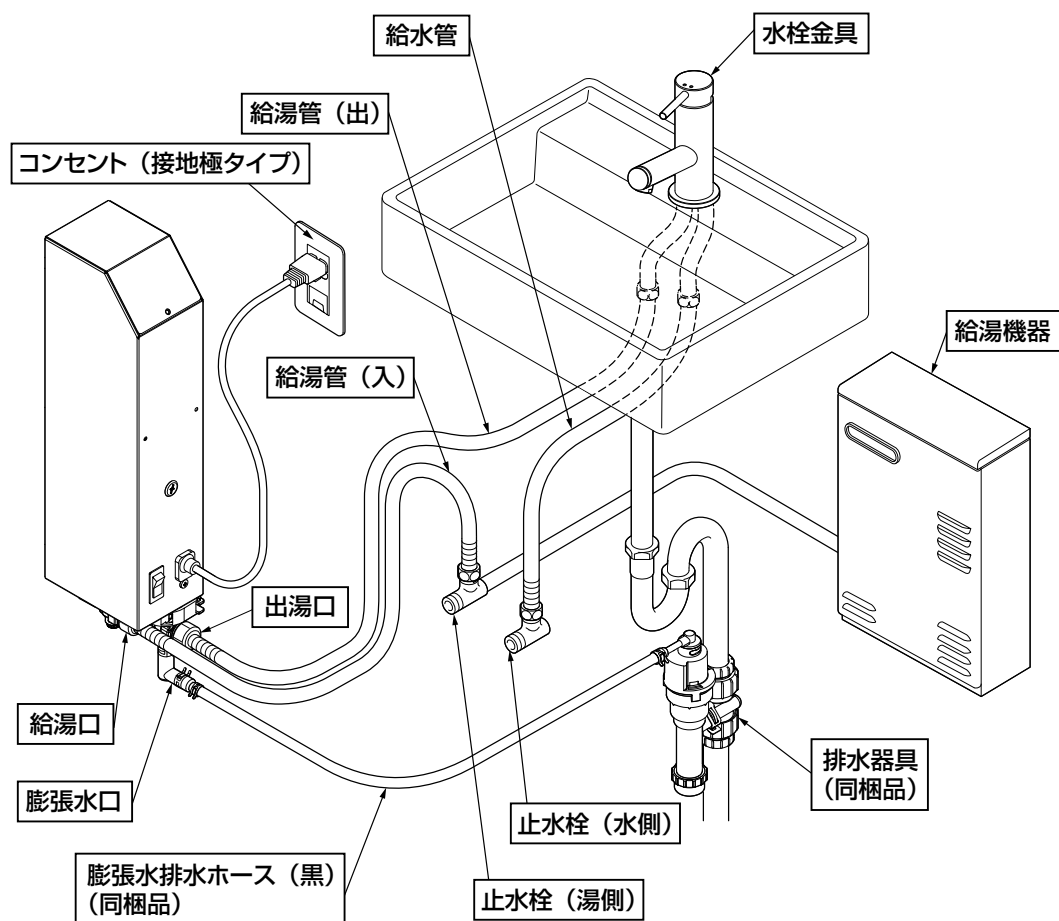
各部のなまえ	1
即湯器の説明	2
安全上のご注意	3
ご使用前の注意事項	6
ご使用方法	8
日常の点検	10
定期的な部品点検のお願い	11
長期間使用しない場合	12
故障かなと思ったら	13
アフターサービスについて	15
仕様	16
保証書	裏表紙
問い合わせ先	裏表紙

各部のなまえ

機器本体

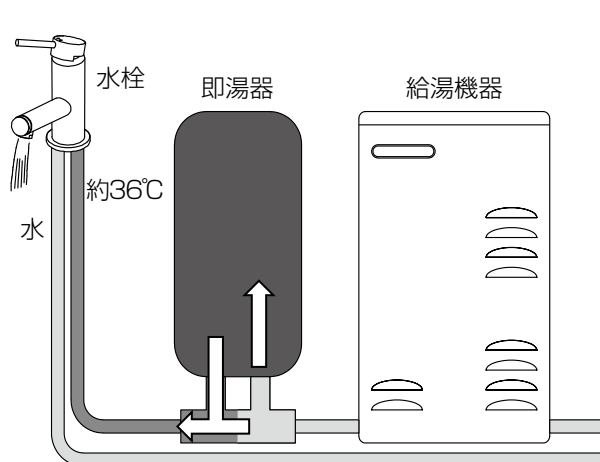


配管図例

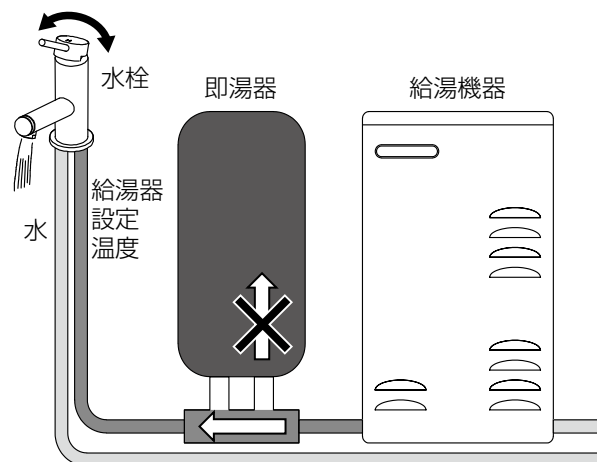


即湯器の説明

この機器は、タンク内のお湯と給湯配管に残った冷水を混合して給湯します。
給湯配管の冷水を消費し、給湯機器からのお湯がくると、給湯機器の設定温度のお湯が給湯されます。



給湯配管内の水とタンクの水を混合し、
水栓に約36℃で給湯。
※水栓の湯側を全開で開いた場合、約
36℃のお湯が出ます。



給湯配管の湯が来たら、給湯機器の湯を
水栓にそのまま給湯。
お湯の温度が上がり始めたら、水栓で水
を混ぜて適温に調節してください。

安全上のご注意（必ずお守りください）

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

用語の説明



警告

取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定される場合。



注意

取扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定される場合。

記号の説明



「注意しなさい！」（上記の『警告』、『注意』と併用して注意をうながす記号です。
必ずお読みになり、記載事項をお守りください。）



禁止

「してはいけません」（一般的な禁止記号です）



指示実行

「指示通りにしなさい！」（一般的な行動指示記号です）



分解禁止

「分解してはいけません！」



「必ずアースを接続しなさい」



「電源プラグを抜きなさい」



警告



禁止

ぬれ手に注意

電源プラグはぬれた手で絶対に触らないでください。
※感電の恐れがあります。



禁止

水かかり厳禁

○屋外には設置されていないことを確認してください。
○屋内でも水がかかったり、表面に結露が生じたりするような湿気の多くなる場所
特に浴室やシャワールームには設置しないでください。
○機器に水をかけたり、機器上部に濡れたものや洗剤等を置いたりしないでください。
※機器内部に液体が入りこんで、機器の故障、火災や感電の原因になります。



分解禁止

分解禁止

修理技術者以外の方は、絶対に分解・修理は行わないでください。
※火災や感電の原因になります。



禁止

機器の改造禁止

○内部配線や電源コードの切断・圧着は絶対に行わないでください。
○内部配線や電源コードを補修する必要がある場合は、現場で加工せずに専用補修部品と
交換してください。
※火災や感電の原因となります。



警告

	アースの接続 ○設置場所の分電盤等に漏電遮断器が設置されていることを確認してください。 ○アースが必ず接続されていることを確認してください。 ※アース工事がされていない場合や不完全な場合は、感電する恐れがあります。
 指示実行	機器のコンセント 機器用に設置するコンセントは「接地極付コンセント」をご使用ください。対応するコンセント形状、使用する電源、ヒーター能力を本体の定格銘板で確認し、必ず適したコンセントをご使用ください。また電源プラグの変更は絶対に行わないでください。 ※火災や漏電等の重大故障の原因となることがあります。
 指示実行	ブレーカー作動時の使用中止 本機器とつながった分電盤のブレーカーが作動した場合、使用を中止し、すみやかに修理を依頼してください。 ※本機器に異常がある恐れがあります。作動したブレーカーを入れ直してご使用を続けた場合、火災や漏電等の重大故障の原因となることがあります。
 指示実行	機器使用の条件 使用する電源、ヒーター能力を本体の定格銘板で確認し、必ず適した配線をしてください。 ※適していない電圧や配線に接続すると火災の危険性があります。
	機器使用の条件 雷の音が聞こえる場合には使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜いてください。 ※感電の原因になります。
 指示実行	電源プラグは確実に差し込む 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。 ※火災の原因になります。
 禁止	電源コードを傷めない 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っばったり、ねじったり、束ねたり、重いものを載せたり、挟み込んだりしないでください。 また電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。 ※電源コードが破損し、感電・火災の原因となります。
 指示実行	電源プラグのお手入れを 半年に1回程度は電源プラグを抜き、ほこりを除去してください。 ※火災の原因になります。
 禁止	機器使用の条件 この機器は水道水以外の水(水道事業体が供給する上水以外)での使用はできません。 ※早期に機器が破損し、感電・漏水の原因となります。



注意

 禁止	機器使用の条件 ○この機器は、車両、船舶での使用はできません。 ○機器を横にしたり、上下を逆さにした状態で使用はできません。 ※機器の故障だけでなく、漏電、漏水などの恐れがあります。 ○この機器は日本国内向けです。国外での使用はできません。
 禁止	機器使用の条件 給湯機器は80℃を超える設定にしないでください。 ※機器の破損やヤケドの恐れがあります。

⚠ 注意

 禁止	機器使用の条件 この機器は太陽熱温水器との接続はできません。 ※水栓から湯が出なかったり、温度が不安定になったり、著しく出が悪くなったりする恐れがあります。
 禁止	機器使用の条件 ○水栓への接続は1ヵ所までにしてください。2ヵ所以上に接続しないでください。 ○浴室用水栓に接続しないでください。 ○この機器を2台以上連結させて使用しないでください。 ※水栓から湯が出なかったり、著しく出が悪くなったりする恐れがあります。
 禁止	機器使用の条件 自動水栓オートマージュAなど、流量2.5L/min以下で使用する水栓金具と組み合わせないでください。 ※通水時に機器内の空気が抜けず、お湯が出ない恐れがあります。
 禁止	単水栓での使用禁止 単水栓では使用しないでください。必ず混合水栓で適温に調節してご使用ください。 ※ヤケドの恐れがあります。
 指示実行	機器使用の条件 この機器は給水圧力0.1MPa(流動時)～0.75MPa(静止時)までの範囲でご使用ください。 ※水圧が高い地域に設置した場合、止水時にタンク内の圧力が高くなり、膨張水口から水が噴き出し続ける恐れがあります。
 指示実行	膨張水排水ホース（黒）の接続 膨張水口からの膨張水排水ホース(黒)の接続が確実に行われているか必ず確認してください。 ※漏水の恐れがあります。
 指示実行	飲用注意 機器内に長期間滞留していた水は、飲用に用いず雑用水としてお使いください。
 禁止	空だき禁止 機器内のタンクが満水になっていない場合は、運転スイッチを「入」にしないでください。 ※機器の破損やヤケドの恐れがあります。
 指示実行	凍結予防 凍結の恐れがある場合は、機器内の水抜きを行ってください。 ※機器が凍結破損し、漏水する恐れがあります。
 禁止	取扱注意 機器に強い力や衝撃を与えないでください。 ※故障や漏水の原因となります。
 指示実行	機器使用上の注意 排水器具の下流側の排水管が詰まらないようにしてください。 ※排水不良となり、漏水の恐れがあります。

ご承知おきいただきたいこと

 指示実行	○この機器は、タンク内のお湯と給湯配管に残った冷水を混合して出湯します。給湯配管の冷水を消費し、給湯機器からのお湯がくると、給湯機器の設定温度のお湯が出ます。お湯を使用中に、出湯温度が変化しますので、必ず混合水栓で適温に調節してご使用ください。 ※ヤケドの恐れがあります。 ○給湯機器の運転スイッチを入れてご使用ください。給湯機器を運転せずにお湯を使うと、使用中短い時間（30秒程度）で水になります。
---	--

ご使用前の注意事項

確認1. 接地極付コンセントが取り付けられていますか？

品番	定格電圧	定格消費電力	対応コンセント形状
EG-1S1 EG-1S2	AC100V	360W	

警告

- 接地極のないコンセントが設置されている場合は、コンセントを付け替えてください。
 - 分電盤に漏電遮断器が設置されていることを確認してください。
- ※故障や、感電・火災の原因になります。



確認2. 電源プラグはコンセントから抜いていますか？

- 電源プラグがコンセントに接続されていれば抜きます。

注意

機器内のタンクが満水になっていない場合は、
電源プラグを差し込まないでください。
※機器の破損やヤケドの恐れがあります。



タンクへの給水手順

⚠ 注意

機器内のタンクが満水になっていない場合は、運転スイッチを「入」にしないでください。
※機器の破損やヤケドの恐れがあります。



①水抜き栓、エアチャージ栓が閉まっていることを確認する。

②【給湯機器が「瞬間式」の場合】

給湯機器の運転スイッチを「切」にする。

※給湯機器に運転スイッチがない場合は給湯機器の電源プラグを抜いてください。

【給湯機器が「貯湯式」の場合】

給湯機器の設定温度を設定可能な最低温度（36℃以下推奨）にする。

※給湯機器の設定温度を36℃以下に設定できない場合は、④の作業にて吐水を3分程度実施し、以降の作業を実施してください。

給湯器の温度を36℃以下に設定できない場合、吐水したときに空気を巻き込んだ状態になることがあります。

⚠ 注意

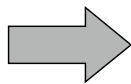
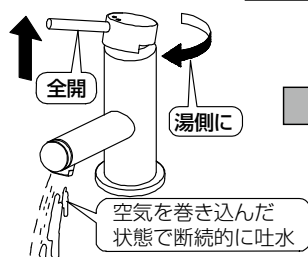
空気の巻き込みがなくなるまで運転スイッチを「入」にしないでください。
※機器の破損やヤケドの恐れがあります。



③止水栓（湯側）を開ける。

④水栓金具の湯側を全開にして吐水する。

吐水が安定するまで続けてください



タンクが満水になるまで
約3分かかります。

⑤止水栓（水側）を開け、水栓金具の水側についても同様の操作を行う。

⑥水栓金具を閉め、各部に漏れがないか確認する。

⑦【給湯機器が「瞬間式」の場合】

給湯機器の運転スイッチを「入」にする。

※給湯機器の電源プラグを抜いた場合は、電源プラグを元に戻してください。

【給湯機器が「貯湯式」の場合】

給湯機器の設定温度を元に戻す。

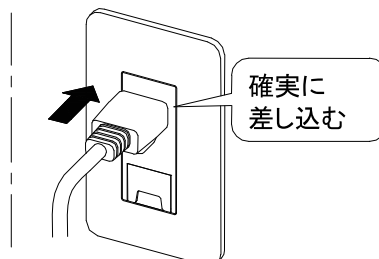
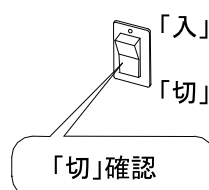
⑧止水栓（湯側、水側とも）で流量を調節する。

止水栓を回して、洗面器から水ハネしたりオーバーフローしたりしないようにします。

⑨運転スイッチが「切」になっていることを確認して
電源プラグをコンセントへ差し込む。

⚠ 注意

電源プラグはコンセントに根元まで
確実に差し込んでください。
※火災の原因になります。



ご使用方法

お湯をわかす

①運転スイッチを「入」にする。

通電ランプが点灯し、わか上げが始まります。

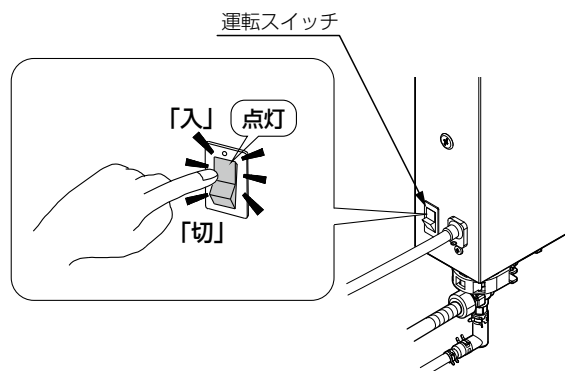
わか上げが完了するまで時間がかかります。
(詳しくは16ページ参照)

②わか上げが完了したら、通電ランプが消灯し、お湯が使える状態になる。

③お湯を使用してタンク内の湯温が下がると、通電ランプが点灯し、再びヒーターに通電される。

④給湯機器の運転スイッチを「入」にする。

すぐにお湯が出る状態になります。



■日常の使用

- お湯を使用する時期は運転スイッチを「入」のままにしてください。
- お湯を使用する際は、給湯機器の運転スイッチを「入」にして使用してください。
給湯機器を使用せずにお湯を使用すると短時間（30秒程度）で水になります。
- 給湯機器の設定温度は36～80℃の範囲で使用してください。
- 使用中に湯温が給湯機器の温度まで徐々に変化するので、必ず混合水栓で水を混ぜながら使い始め、適温に調節してご使用ください。
- 1週間以上使用しない場合や、夏場でお湯が不要な場合は運転スイッチを「切」にしてください。

安全装置のリセット方法（通電ランプが点灯しない場合）

空だき等の原因で安全装置が作動した可能性があります。
下記の手順にしたがって、安全装置をリセットしてください。

①運転スイッチを「切」にし、電源プラグをコンセントから抜く。

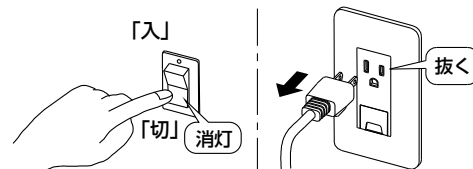
※電源プラグを抜く前に運転スイッチを「切」にしてください。



注意

必ず電源プラグをコンセントから抜いてから作業を行ってください。

※感電の恐れがあります。



②タンクへ給水されているか確認する。

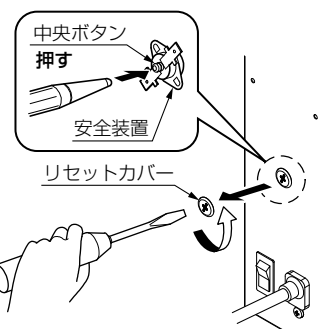
されていない場合、7ページ「タンクへの給水手順」に従い、給水する。

③リセットカバーをドライバーで取り外し、安全装置の中央ボタンを押す。

ボールペンの先などで、安全装置の中央ボタンを押します。

④取外しと逆の手順でドライバーを用いリセットカバーを取り付ける。

取付後、リセットカバーが取り付けられていることを確認してください。



【取外し時、取付け時の注意】

取外し時：リセットカバーを半時計方向に回すと、約1回転で外れます。

取付け時：リセットカバーを時計方向に回すと、約1回転で取り付きます。

※リセットカバーの締め込みすぎに注意してください。

再使用後、再び安全装置が作動した場合は、機器の使用を中止し、
すみやかに 販売店またはLIXIL修理受付センターに修理を依頼してください。

日常の点検

⚠ 注意

必ず運転スイッチを「切」にし、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
※感電の恐れがあります。



つぎのものは使用しないでください。
・酸性、アルカリ性および塩素系の洗剤類
・ベンジン、シンナー、ラッカー、アルコール等の溶剤や油類
・クレンザー等の粒子の粗い洗剤
※機器の変色や破損の原因になります。



機器周りの漏水点検(日常)

機器、各配管とその接続部分は、長期間の使用により漏水する場合があります。接続部分や機器の下面から漏水していないか日常的に点検してください。
漏水を発見した場合は、すぐに止水栓を閉め、お買い求めの販売店またはLIXIL修理受付センターへご連絡ください。

機器周りの環境(日常)

機器上部にぬれたものや洗剤等が置かれていないか確認してください。
置かれている場合は、ただちにに取り除いてください。

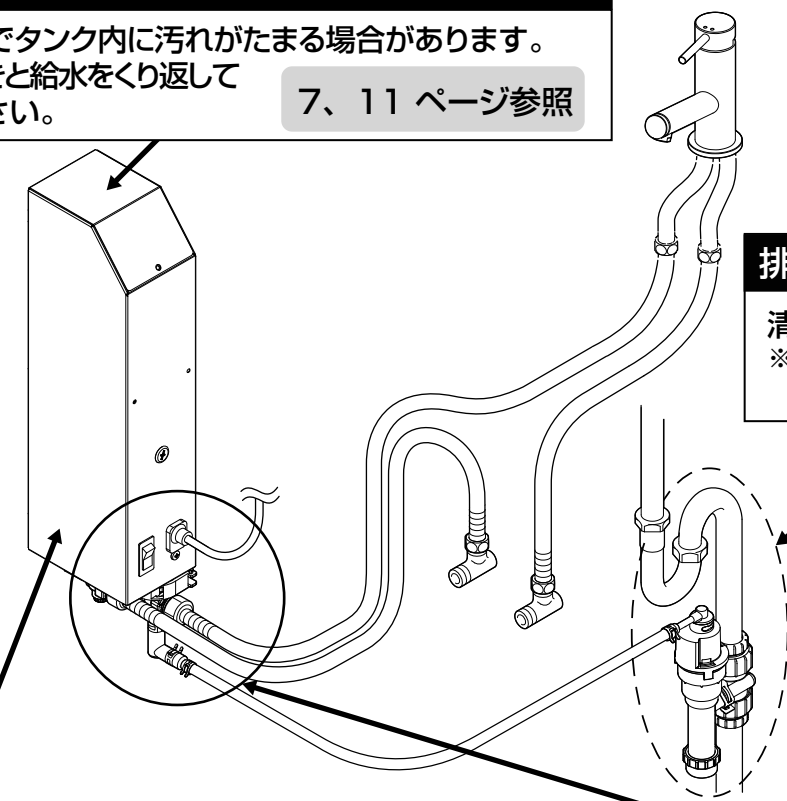
タンク内のお掃除(年1回程度)

長期間の使用でタンク内に汚れがたまる場合があります。
機器内の水抜きと給水をくり返して
清掃してください。

7、11 ページ参照

排水管のお掃除(月1回程度)

清掃をしてください。
※排水経路がつまり、漏水の恐れがあります。



機器のお掃除(日常)

通常は乾いた布で拭いてください。汚れがひどいときは、適量にうすめた中性洗剤をしみこませた布で拭きとってください。

また洗剤は確実に拭きとってください。

※給湯配管まわりをお手入れする場合は、配管を冷やしてから行ってください。ヤケドの原因になります。

※ナイロンたわし、ステンレスたわし、ブラシ等は使用しないでください。キズの原因になります。

配管・プラグコード周りの環境(日常)

収納物などで配管やプラグコードが押されて、無理な力がかかっていないことを確認してください。

無理な力がかかっている場合はただちに
取り除いてください。

※漏水する恐れがあります。

※電源コードが破損し、感電・火災の原因となります。

定期的な部品点検のお願い

●部品点検について

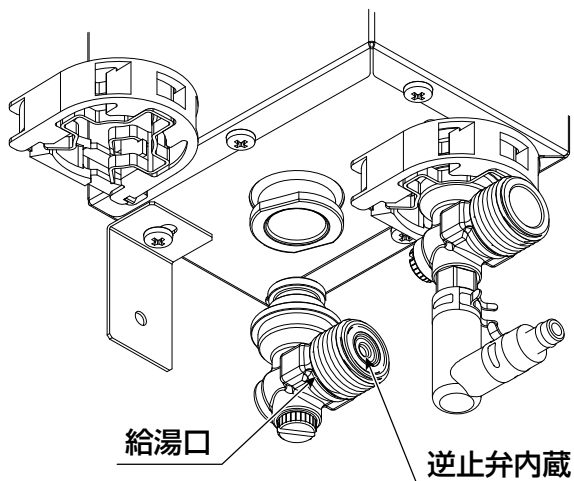
給水用具（逆流防止装置）を内蔵している機器は安全・快適にお使いいただくために、社団法人日本水道協会発行の「給水用具の維持管理指針」に基づき、4～6年に1回程度の点検を受けることをお勧めします。

●摩耗・劣化する部品交換について

部品が摩耗・劣化すると水漏れ等の原因になりますので、交換が必要です。

- ・交換時期の目安：4～6年
- ・摩耗・劣化する部品の例：逃し弁、パッキン、Oリング、電装品など

点検・交換は販売店またはLIXIL 修理受付センターにご相談ください。



冬季凍結の恐れがある場合

積雪の多い地方だけでなく、暖かい地域でも思いもよらぬ冷え込みで凍結事故が発生する場合があります。凍結する恐れがある場合は水抜きをしてください。

⚠ 注意

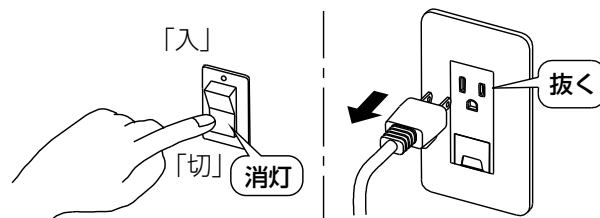
室温が0℃以下になると考えられるときは、機器の水抜きを行ってください。
水抜きを行う前に、空だき防止のため、運転スイッチを「切」にして、電源プラグを抜いてください。
※機器の漏水や破損の原因になります。



機器内の水抜き方法

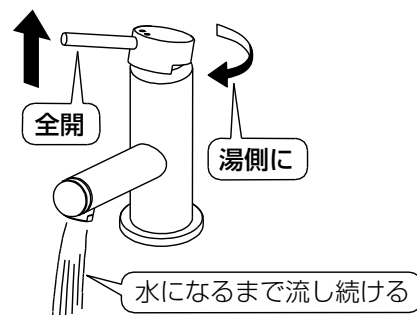
長期間、機器の使用をしない場合（特にその間に凍結の恐れがある場合は必ず）
下記の手順にしたがって、機器および排水器具の水抜きを行ってください。

- ① 運転スイッチを「切」にし、電源プラグをコンセントから抜く。



- ② 【給湯機器が「瞬間式」の場合】

- (1) 給湯機器の運転スイッチを「切」にする。
※給湯機器に運転スイッチがない場合は給湯機器の電源プラグを抜いてください。
- (2) 水栓金具の湯側を全開にして、吐水が水になるまで流し続ける。



⚠ 注意

必ず機器内の湯を出し切ってください。
※機器内に湯が残っていると、水抜き時にヤケドの恐れがあります。



【給湯機器が「貯湯式」の場合】

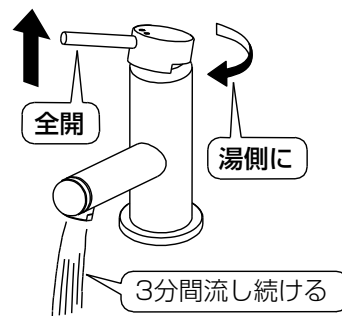
(1) 給湯機器の設定温度を設定可能な最低温度(36℃以下推奨)にする。
 ※給湯機器の設定温度を36℃以下に設定できない場合は、排水の温度が高温になる場合があります。注意して水抜き作業を実施してください。

(2) 水栓金具の湯側を全開にして、3分間流し続ける。

③水栓金具の湯側を開けたまま、止水栓(湯側)を閉める。

④止水栓を閉めたあと、水栓金具を閉める。

⑤水栓金具の水側でも同様の操作を実施する。



⚠ 注意

【給湯機器が瞬間式の場合】

●必ず機器内が水になっていることを確認してから水抜き栓を開けてください。

※高温の湯で、ヤケドの恐れがあります。

【給湯機器が貯湯式の場合】

●給湯機器の設定温度を36℃以下に変更できない場合は、排水温度が高温になる可能性があります。注意して水抜き作業をしてください。



⑥水抜き栓を外す。

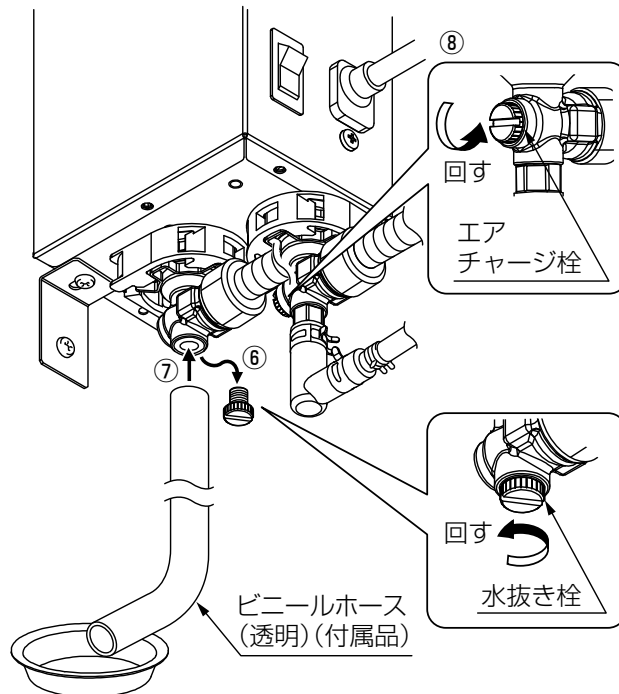
⑦付属の排水用ビニールホース(透明)を水抜き栓に差し込み、反対側はトレイ等で受ける。

⑧エアチャージ栓を開ける。

水抜き栓を外してからエアチャージ栓を開けてください。

※水抜き栓を閉めた状態で開けるとエアチャージ栓から水が出てきます。

⑨排水終了後、水抜き栓、エアチャージ栓を元にもどす。

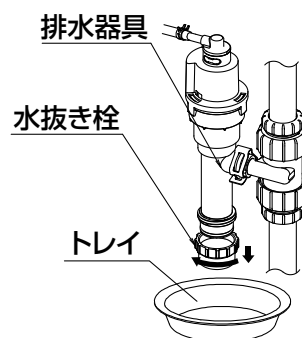


■排水器具の水抜き

●排水器具の水抜き栓を開ける。

・水抜き前には、排水器具下部に水を受けるトレイ等を準備してください。

・水抜き後には、必ず水抜き栓を取り付けてください。



長期間使用しない場合

①機器内の水抜き方法(11ページ)に従い、機器内の水を抜いてください。

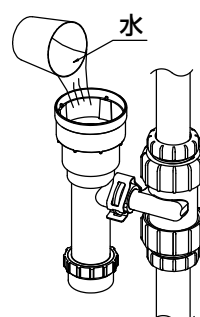
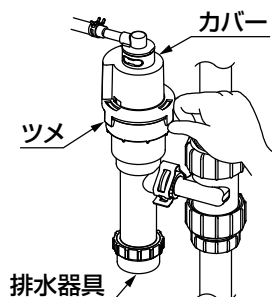
②定期的に、排水器具内のトラップ部に水を補給してください。

※機器の電源を切ると、排水器具内のトラップ部が封水切れを起こし、臭気が発生することがあります。

【トラップ部への水の補給手順】

①排水器具のカバーを取り外す。(ツメ3ヶ所を外します。)

②コップ等でトラップ部に水を補給する。



故障かなとおもったら

故障かなと思ったら、まずは下記項目をご覧になり、処置方法を試してみてください。
確認しても故障が直らない場合は、販売店またはLIXIL 修理受付センターへご相談ください。



注意

修理技術者以外の方は、絶対に分解、改造は行わないでください。
※火災や感電の原因になります。



お湯が出ない、お湯にならない、お湯がぬるい

原因	処置方法
止水栓は開いていますか？	止水栓を開けてください。
元電源は入っていますか？	分電盤のブレーカーを「入」にしてください。
分電盤のブレーカーが作動していませんか？	機器の使用を中止し、取扱店またはLIXIL 修理受付センターへご相談ください。
電源プラグは確実に差し込まれていますか？	電源プラグをコンセントに確実に差し込んでください。
空だきして安全装置が働いていませんか？	安全装置をリセットしてください。 9 ページ
運転スイッチが「切」になっていませんか？	運転スイッチを「入」にしてください。 9 ページ
給湯機器の運転スイッチが「切」になっていませんか？	給湯機器の運転スイッチを「入」にしてください。

流量が少ない

原因	処置方法
止水栓が十分に開かれていますか？	止水栓を開けてください。 7 ページ
断水していませんか？	断水の確認をしてください。
給湯機器のストレーナーが詰まっていますか？	給湯機器の取扱説明書に従ってストレーナーを掃除してください。
水栓金具の吐水口が詰まっていますか？	水栓金具の吐水口を掃除してください。

漏水している

原因	処置方法
即湯器本体から漏水していますか？	止水栓を閉め、販売店またはLIXIL 修理受付センターへご相談ください。
配管接続部から漏水していますか？	締め直すことができる部分は締め直してください。それ以外は止水栓を閉め、修理依頼をしてください。
排水管が詰まっていますか？	排水経路が詰まっていると、排水器具から漏水の恐れがあります。排水管を定期的に掃除してください。 10 ページ

お湯が汚れている

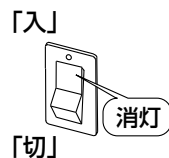
原因	処置方法
タンク内が汚れていませんか？	タンク内を掃除してください。 10 ページ

次の場合は故障ではありません

こんなときは

理 由

運転スイッチを「入」にしているのに
通電ランプ が点灯していない。

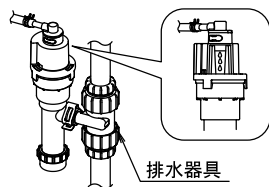


タンク内の水がわきあがると、ヒーターの通電を停止するため
スイッチ部 が消灯します。
タンク内の湯温が下がる、ヒーターの通電を開始するため
スイッチ部 が点灯します。



8 ページ
参照

運転スイッチを「入」にしたときに
排水器具からポタポタと水が出る。



タンク内の水は温められると、膨張して体積が増えます。
その膨張した水を排水器具から排出しており、異常では
ありません。

再使用時にお湯の温度が一瞬低く
なるまたは高くなる場合がある。

内蔵されている安全サーモスタットの温度調節に若干時間が
かかるためです。

出てくるお湯ににおいがする。

水道水中に含まれるにおい成分(カルキ臭)などが加熱され、
においが感じられることがあります。使い始めはプラスチック
のにおいがすることがありますが、ご使用とともに少なくな
ります。

本体が熱くなっている。

通常機器外装部の表面温度は、約50℃程度まで上昇します。

機器から異音がする。

お湯のわきあがり近くなると、機器内部からお湯がわいて
いる音がする場合がありますが、異常ではありません。

使用しているとお湯の温度が高くなる。

この機器は、タンク内に溜めたお湯と給湯配管内の残水を
混ぜて出湯します。給湯機器の設定温度が高く、給湯配管内
がお湯になっている場合は、出湯温度が高くなります。

上記処置で不明な点がございましたら、販売店または当社お客さま相談センターへご相談ください。
修理のご依頼が必要な場合はLIXIL 修理受付センターにご連絡ください。

TEL ☎ 0120-179-411 FAX ☎ 0120-179-456

アフターサービスについて

1.修理を依頼される前に

使用していて、故障ではないかと思われたら、13、14ページの「故障かなとおもったら」、「次のような場合は故障ではありません」を参照してください。

2.保証書をご覧ください

- 本製品の保証期間はお取付日から2年間です。
- この取扱説明書の最後のページが保証書になっています。お取付日、取扱店名などの記入をお確かめのうえ大切に保管してください。
- 保証期間内でも有料になることがありますので、保証書の記載内容をよくご確認ください。

3.修理を依頼されるとき

<保証期間中の修理>

- ・修理に際しては、保証書をご提示ください。
- ・保証書の規定にしたがって修理させていただきます。

<保証期間経過後の修理>

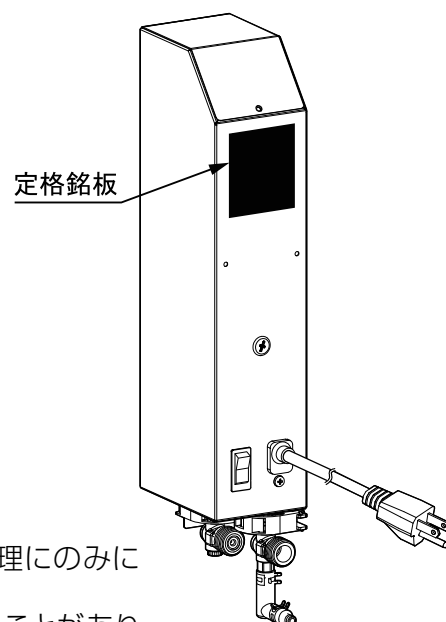
- ・修理すれば使用できる商品については、有料にて修理させていただきます。
- ・修理料金は「技術料」+「出張料」+「部品代」で構成されています。

<連絡していただきたい内容>

- 1 ご住所・ご氏名・電話番号
- 2 商品名・品番・取付年月日
(機器本体の定格銘板をご覧ください)
- 3 故障内容・異常の状況をできるだけ詳しく
- 4 訪問ご希望日・お宅までの道順

※お客さまからご連絡いただく氏名や住所等の個人情報は、商品の点検修理にのみに利用し管理いたします。

なお、これらの業務に携わる協力会社へもお客さまの個人情報を開示することがありますが、弊社と同等の管理を行わせています。



4.部品の保有期間について

この機器の補修用性能部品の保有期間は、製造打切後6年です。

この部品保有期間を修理対応可能な期間とさせていただきます。

保有期間が経過した後でも、故障個所によっては修理可能な場合がありますので、ご相談ください。

※補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

5.修理のご依頼は

お求めの販売店やお近くの水道工事店、または

LIXIL 修理受付センターまで

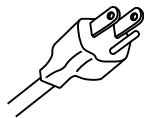
TEL ☎ 0120-179-411

受付時間9:00～19:00 (365日受付)

FAX ☎ 0120-179-456

ホームページアドレス<http://www.lixil.co.jp/support/>

仕様

品番		EG-1S1, EG-1S2
寸法(突出部寸法含む)		幅80mm×奥行115mm×高さ447mm
本体質量(満水時)		約2.2Kg(約3.4Kg)
給水方式		先止め式(直圧式)
使用水压範囲 ※1		0.1MPa(流動時)～0.75MPa(静止時)
逃し弁設定圧力		吹き始め：0.95MPa 吹き止り：0.75MPa以上
電源コード・プラグ形状		有効長さ 1.0m 
電気 定格	電源電圧	AC100V(50/60Hz)
	消費電力	360W
タンク	容量	約1.2L
	材質	特殊ステンレス鋼板
わきあがり温度		80℃
出湯温度 ※2、3		約36℃～給湯機器設定温度
わきあがり時間		約17分(15→80℃)
発熱体	構造	シーズヒーター
	容量	360W
自動温度調節器		バイメタル方式(自動復帰式)
温度過昇防止器		バイメタル方式(手動復帰式)
組み合わせる給湯機器の 設定可能温度 ※2		36～80℃
使用可能雰囲気温度		0～40℃(ただし凍結しないこと)

※1：自動水栓と組み合わせる場合は、0.1MPa(流動時)～0.75MPa(静止時)となります。

※2：タンク内のお湯と給湯配管に残った冷水を混合して出湯します。給湯配管内の冷水を消費し、給湯機器からのお湯がくると、自動的に切り替え、給湯機器のお湯が出ます。必ず混合水栓で湯と水を混ぜて適温に調節してご使用ください。

※3：給湯温度は変更できません。

■排水器具との組合せ

品番	排水器具
EGS-1S	EFH-6：手洗器・洗面器用
EGK-1S	EFH-6K：洗面化粧台用
EGM-1S	EFH-6MK：キッチン用

特定電気用品の適合性検査証明

本製品は、電気用品安全法第9条の規定に基づき、特定電気用品の適合性検査証明を受けています。

MEMO

保証書

本書は、本書記載内容で、無料修理を行うことをお約束するものです。下記保証期間内に故障が発生した場合は、本書をご提示のうえ、お買い求めの取扱店に修理をご依頼ください。

※ 品番・取付日・お客さま・取扱店の欄に記載のない場合は、無効になります。

品名：		(品番：)	
保証期間 取付日より 2 年		取付日 年 月 日	
お客さま	おなまえ	取扱店名	
	おところ		
	おでんわ () —		
		TEL () —	

お客さまへ

- ・保証書は再発行しませんので、紛失されないよう大切に保管してください。
- ・お客さまにご記入いただくこの保証書の個人情報につきましては、保証期間内の無料修理対応およびその後の安全点検活動のために利用させていただきます。

無料修理規定（保証規定）

1. 「取扱説明書」・「ラベル」などの注意書に従った正常な使用・維持管理状態で、保証期間内に故障した場合、無料修理いたします。
2. 無料修理をお受けになる場合、お買い求めの取扱店にご依頼のうえ、本書をご提示ください。
3. ご転居、ご贈答品などで、本書に記載の取扱店に修理を依頼できない場合は、取扱説明書に記載のお客さま相談センターまたはLIXIL修理受付センターにご相談ください。
4. 保証期間内でも、以下の場合、有料修理とさせていただきます。（免責事項）
 - (1)用途以外（車両、船舶及び使用頻度が極度に高い業務用等）に使用した場合の故障及び損傷等の不具合
 - (2)指定業者や施工説明書等に基づかない施工及び工事に起因する不具合
 - (3)お客さまが適切な使用・維持管理を行わなかった事による故障及び損傷等の不具合
 - (4)専門業者以外による移動・修理・分解などに起因する不具合
 - (5)建築躯体の変形（強度不足・ゆがみ）等製品以外の不具合に起因する当該製品の不具合
 - (6)経年変化使用に伴う外観上の現像（塗装の色あせ、もらい錆等）または使用に伴う消耗部品の摩耗等により生じる不具合
 - (7)海岸付近、温泉地などの地域における腐食性の空気環境及び公害環境（煤煙、塩害、砂塵、各種金属粉、硫化水素ガスなど各種ガス）に起因する不具合
 - (8)小動物（犬、猫、ねずみ、昆虫等）の行為または蔓（つる）や根などの植物の害に起因する不具合
 - (9)天災地変（火災、爆発等事故、落雷、地震、噴火、風水害、津波、地盤沈下、凍結、雪害等）に起因する不具合による故障及び損傷
 - (10)戦争・暴動等破壊行為または犯罪等の不法行為に起因する破損や不具合
 - (11)自然現象や住環境に起因する結露・染み出し・かび等の現象
 - (12)消耗品（パッキン）類、配管中の異物のつまり等による故障及び損傷
 - (13)水道水以外を給水したことによって生じた故障及び損傷（※水道水とは、水道事業者が供給する上水をいう）
 - (14)凍結による故障及び損傷
 - (15)給水・給湯配管の錆、砂やごみなどの異物の配管内流入及び水あか固着に起因する不具合
 - (16)ガス・電気・給水等の供給で指定された以外の環境（異常ガス圧、異常電源・電圧・周波数、異常電磁波、異常水圧・水質、音、振動等）に起因する故障及び損傷などの不具合
 - (17)指定規格以外のガス・電気・燃料等を使用したことに起因する不具合
 - (18)保証書の期限切れまたは提示がない場合
 - (19)本書にお取付日・お客さまのお名前・取扱店名の記入のない場合、あるいは字句の書き替えられた場合
5. 本書は日本国内においてのみ有効です。
6. 本書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無料修理を行うことをお約束するものです。従って、本書によってお客さまの法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理など、ご不明の場合、お買い求めの取扱店または取扱説明書に記載のお客さま相談センターにお問い合わせください。
7. 修理に必要な補修用性能部品の保有期間は、製造打切後6年です。

商品についてのお問い合わせはお客さま相談センターまで

TEL ☎ 0120-179-400

FAX ☎ 0120-197-430

受付時間 平日 9:00～18:00

土日・祝日 9:00～17:00

（ゴールデンウィーク、夏期、年末年始の休みは除く）

修理のご依頼はLIXIL修理受付センターまで

TEL ☎ 0120-179-411

FAX ☎ 0120-197-456

受付時間 9:00～19:00（365日受付）

株式会社 LIXIL

ホームページアドレス <http://www.lixil.co.jp/>

株式会社 LIXIL

使い方・お手入れ方法等、商品についてのお問い合わせは

お客さま相談センターまで

TEL ☎ 0120-179-400

FAX ☎ 0120-179-430

受付時間 平日 9:00～18:00

土日・祝日 9:00～17:00（ゴールデンウィーク、夏期、年末年始の休みは除く）

※フリーダイヤルは携帯電話・PHS・IP電話などではご利用できない場合がございます。

下記番号をご利用ください。

TEL 0562-40-4050

FAX 0562-40-4053

インターネット・ホームページアドレス

<http://www.lixil.co.jp/>

修理のご依頼は（本文の「アフターサービス」をお読みください）

お求めの販売店または

LIXIL 修理受付センターまで

TEL ☎ 0120-179-411

受付時間 9:00～19:00(365日受付)

FAX ☎ 0120-179-456

ホームページアドレス <http://www.lixil.co.jp/support/>

●当社は、当社取扱商品のユーザーさまおよび流通業者さま等の個人情報を商品納入にあたって取得し、将来にわたる品質保証、メンテナンスなど、当社プライバシーポリシーに記載の目的のために利用させていただきます。個人情報の取扱いについての詳細は、当社ホームページの「プライバシーポリシー」をご覧ください。

